

マザーボードへの CPU 取り付け

CPU はマザーボードをケースへ取り付ける前に行います。

CPU を化粧箱から取り出します。

CPU にはゴミが付着しないようにカバーがついています。カバーをとります。

CPU のコネクタの横にレバー (Load Lever) が付いていますが、このレバーを少し外側にずらして上側に開きます。

CPU コネクタの押さえ枠 (Load Plate) を開きます。蝶番になっていますので注意。

「**注意事項!**」と書かれた黄色い紙が貼ってある黒いプラスチックは保護カバーです。この保護カバーを取ります。

以前の CPU は CPU 側にピンが付いていた PGA 型でしたが、現在は CPU 側丸くなっている LGA 型となりソケット側にピンが付いています。

ピンを曲げたり、接点を汚さないようにするために触れないように注意しましょう。

ソケットには 2 か所出っ張りがあります。CPU には 2 か所切り欠きがあります。これらを合わせるようにして、CPU の接点部分をソケットのピンに向けてそっと置きます。

CPU を固定するために抑え枠を閉じます。レバーを元の位置に戻してロックします。

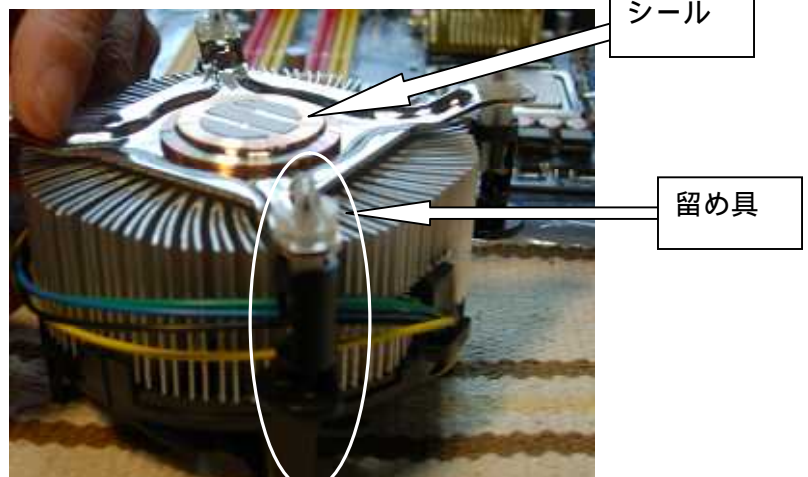


CPU クーラー (ヒートシンク + ファン) の取り付け

マザーボードに取り付けた CPU の表面とクーラーのヒートシンク部分をくっつけることにより熱を発散させて冷却します。(CPU から発する熱をヒートシンクへ伝え、ファンで逃がす仕組みです)

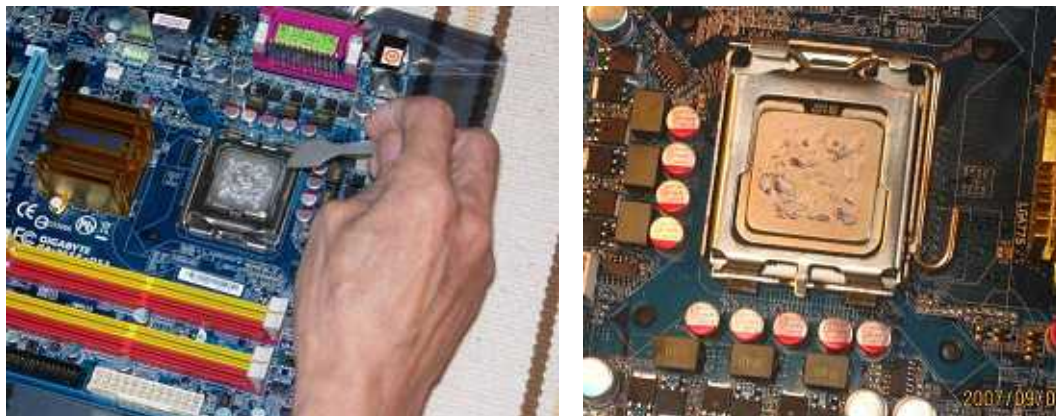
CPU ソケットの周りに 4 か所の穴があります。この穴にクーラーの 4 本の固定用留め具を差し込んで固定します。

クーラーの接触部分には CPU と密着させて熱がヒートシンクに伝わりやすいようにあらかじめ熱伝導シールが貼ってあります。



一度取り外した場合はシールをきれいに取り除いてから、シリコングリス (別途購入する必要があります) を塗って再度取り付けることとなります。

シールまたはシリコングリスが塗ってないと効率よく熱を逃がすことができなくなりオーバーヒートしてしまいます。グリスは適量(薄く広げる程度)になるように注意しましょう。グリスが手に付いた場合は他の部品につかないようにふき取っておきます。下図では CPU にグリスを塗っている例です。(初めての場合は塗る必要はありませんが、今回は念のためグリスを塗りました)



クーラーには 4 本の留め具がありますが、その足の上には溝(スロット)が掘ってあります。溝を反時計方向に 90 度回します。上部に矢印が記されていますのでその方向に回します。(4 本とも)

クーラー固定留め具の先端の部分(ペグ)は二つに分かれています。

この部分がマザーボードの穴に差し込まれ、中の黒い心棒(アンカー)が押し込まれることにより穴の中で広がり固定することができます。

CPU クーラを取り付けする前に、CPU クーラを裏返して 4 本のアンカー全てについて、アンカーを引っ張って、ペグの先端にアンカーが入っていないかを確認します。

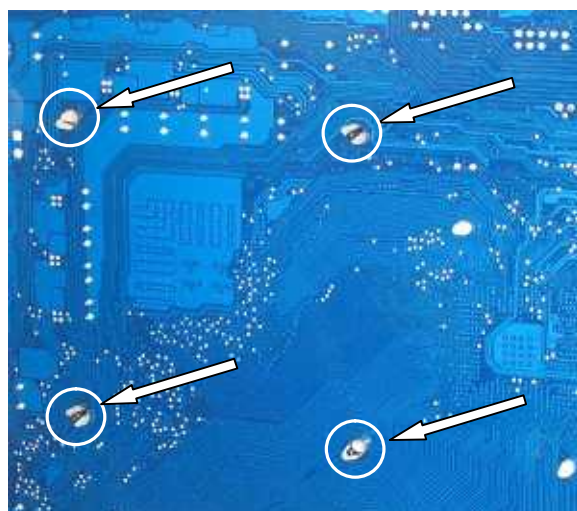
CPU の上にクーラを置きます。どの方向においても構いませんが位置はファンケーブルの電源コネクタとの接続を考えておくようにします。

足を穴に差し込んだら、対角線上の二つを同時に押し込んで固定します。固定する順番は対角線で行うと取り付け時の偏りが少なくなるからです。

クーラ固定留め具の先端の部分は二つに分かれています。

この部分がマザーボードの穴に差し込まれ、アンカーが押し込まれることにより穴の中で広がり固定することができます。

取り付け後は必ずマザーボードを裏返し、ペグの先端にアンカーが貫通していることを確認します。(固定用の白い割ピンがマザーの裏まで突き抜けて、アンカーの先端が少し見えていること)



この作業は丁寧にいきます。うまくはまらなかったときはやりなおします。
ゆっくりと確実にいきましょう。

確認したらファンの4ピン電源コネクタをマザーボード上のファンソケットに差し込みます。

下の写真はCPUクーラ取り付けの完了です。

